第7回 学習活動の基本スキル(2)

レポートを書く(基礎編)

- 感想文は、自分の気持ちや感情を書き表したもの(主観的な見方)
 - ○心に残った文章とその理由を述べる
 - ○「もし自分なら」「こういう状況なら」など仮定して考えてみる
- レポートは、調査や研究の結果わかった『事実』と、それに基づ〈自分の『意見』をまとめたもの
 - ○事実:内容が本当かどうか(真か偽か)客観的に確かめられる文
 - 意見:書き手の考え(判断、推測)をあらわした文(客観的な事実に基づく)

レポートを書く手順

- 1. 大まかなテーマに関する基本的な情報を集める(新聞、インターネット、事典など)
 - テーマとなっている問題や課題について、全体像や大まかな内容を理解する
- 2. 基本的な情報からより具体的なテーマを決める
 - 大まかなテーマの中から自分が興味を持てる具体的なテーマに絞り込む
- 3. 具体的なテーマに関する文献をいくつか集める(専門図書、専門雑誌、論文など)
- 4. 集めた文献を読んでレポートにまとめる

表紙のレイアウト

- 担当教員名、開講曜日・時限、「授業名」レポート、レポートのテーマ名(必要であれば)
- 提出日
- 学部·学科名、学籍番号、氏名

(表紙の例)

担当教員:河野 稔 水曜日 1時限 「基礎ゼミ?」レポート

2010年6月2日(水)提出

健康科学部 健康システム学科 H2101000 兵庫 太郎

レポート作成と提出時の注意

- まずは「キャンパスガイド2010」の90ページで確認
- 指定された提出日と時間、また書式などが指定されている場合は、必ず守る
- 用紙は、と〈に指定がなければA4サイズのレポート用紙(ルーズリーフは避ける)
- 複数枚のレポートは、必ずページ番号を書いておき、ホッチキス止めは左上1か所または左側を2か所

正確な文章を書く

- 文体は「である体」で書く
 - ○普段の生活で使う「です・ます体」は使わない
- 主語と述語の関係を明確にする
 - ○「こそあど」言葉(指示代名詞)を多用しない、体言止めは使わない

- 文章の長さは短めにする
 - 読点(、)が少ない文章で、あいまいな表現を避ける
- 読点(、)は、動詞を含む部分が2つ以上ある場合は、その間に打つ
 - 読点で文章の意味をキチンと区切る
- 漢字とひらがなを使い分けに注意する
 - ○「言う」「いう」
 - ○「~する時」「~するとき」
 - ○「所謂」「いわゆる」
 - ○「特に」「と〈に」
 - ○「故に」「ゆえに」
 - ○「時々」「ときどき」
 - 。 「いう」、×「ゆう」
 - 「とおり」、x「とうり」
- 接続詞を正しく使う
 - 結果・帰結:ので、から、だから、したがって、と、それで、すると
 - ○逆説・対照:しかし、けれども、のに、ても、ところが
 - 追加・累加:たり、そして、また、なお、ところが
 - ○言換・例示:つまり、すなわち、要するに、たとえば
 - ○理由・補足:なぜなら、というのは、、ただし、もっとも
 - 話題の転換:さて、ところで
- 数字の書き方を統一する
 - アラビア数字(1、2、3、...)なら半角文字で書く
- 箇条書きを活用する
 - 内容を列挙したり分類するには便利で、要点がはっきりする

引用のしかた

- 「引用」とは、レポートや論文で、他の文献の意見や考えを紹介して、自分の意見を明確にする
- ●引用するときの一番の注意点は、どの部分が引用なのか、それがわかるように書くこと
 - ○他人の意見を自分の意見のように書くことは、いわゆる「盗作」という犯罪になる
- また「引用に自分の意見を語らせない」で、自分の意見を陰陽とは別に書く
- また引用は、必要最低限にとどめる
- 引用のしかたには、いくつかのやり方があるが、一般的なやり方を説明する。
 - 1. 要約して引用:必要かつ十分な長さで要約する
- 2. 短い引用(2行以内):引用文をカギカッコ(「」)でくくる

安田は、人々から組織の関係をとらえるのに「現象から記号(すなわち) モデルを投資するような柔軟性を備えなければならない」と述べている。

3. 長い引用(3行以上):引用文の前後に1行空けて、左側を2~3文字分字下げする

安田は、『ネットワーク分析』のなかで、次のように述べている。

言葉をかえて言うならば、「行為者の行為を、個人的な属性からではなく、その行為者を取り囲むネットワークによって説明する」ための分析をおこなうのが、ネットワーク分析です。

つまり......

なお、2番目と3番目の場合は、一字一句正確に引用し、勝手に加筆・訂正してはいけない。

「書評」を書いてみる

文献や資料を批判的に読んで(クリティカル・リーディング)、それを元にある問題点について批判的に考える(クリティカル・シンキング)の練習として、文献や資料の批評、「**書評**」をしてみましょう。

書評全体の構成は、次のようになります。

- タイトル
 - 著者名「題名·書名」、発行所、発行年。
- (1) 目的の提示 (全体の10%ほど)
 - どんなテーマの文献についての批評(コメント)なのか、著者がどんな議論をしているのか、内容について大まかに紹介する。
 - ○以下で述べる手順について簡単に説明する。
- (2) 要約 (全体の30~40%ほど)
 - 文献やパラグラフ(段落)の順を追って、メリハリをつけて要約する。
 - ■まず、パラグラフを一文で要約。
 - パラグラフの要約をつなげたものを、さらに一文で要約。
 - ■場合によっては、節 章の順に、要約していく。
 - ○キーワードやキーセンテンスについて説明をし、また、専門用語や重要な概念には解説をする。
- (3) 問題提起 (全体の10~20%ほど)
 - ○著者の主張のうち、中心的・重要な話題を数点取り上げる。
 - 自分が関心を持った主張、重要と思われる意見をピックアップし、その理由や根拠を示す(ただ「関心がある」「面白い」ではダメ)。
 - それらに対しての自分自身の問題提起(疑問、反論、同意)を行う。
- (4) 議論(全体の30~40%ほど)
 - ○自分で提起した問題について、議論を展開する。
 - 自分の主張を、別の例の提示や別の説明などを説得力のあるかたちで、論理的・実証的に説明する。
- (5) まとめ(全体の10~20%ほど)
 - ○以上をまとめて要約し、結論づける。

参考文献

- 学習技術研究会編著「知へのステップ 改訂版」、〈ろしお出版 (2006.10)
- 専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」、専修大学出版局 (2006.04).
- 佐藤望編著、湯川武、横山千晶、近藤明彦「アカデミック・スキルズ」、慶応義塾大学出版会 (2006.10).
- 小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書 1603), 講談社(2002.04).

● 河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」, 慶応義塾大学出版会 (2002.12).

今回の宿題(提出期限:次回の授業)

- 今回配布した資料の書評を書いて提出すること
 - ○使用する紙のサイズは、A4サイズ
 - 枚数は、2,3枚程度(ホッチキス止めはしないこと)
 - ○1枚目の最初には、次のように書いておくこと

「基礎ゼミ」」レポート

2010年6月9日(水)提出

健康科学部 健康システム学科 学籍番号 自分の氏名

○手書きでもワープロで印刷したものでもよい